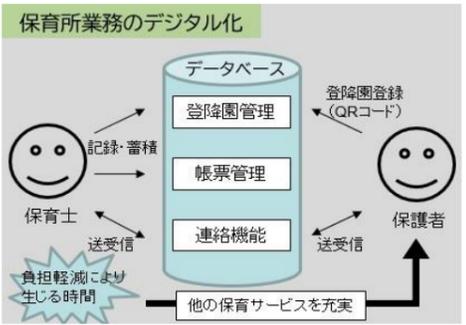


R5 デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証結果

事業名 (R5年度実績額) (交付金の種類) (計画期間)	重要業績評価指標 (KPI)				令和5年度の諏訪市の取組内容	効果検証結果	
	指標	R5目標値	R5実績値	達成度		事業効果及びその判断理由	今後の方針及びその判断理由
「諏訪湖創生推進拠点」を核とした諏訪湖の魅力向上・発信プロジェクト (事業主体：長野県) (1,005,537円) (地方創生推進タイプ) (R3～5年度)	諏訪地域観光消費額	36,290 百万円	36,271 百万円	99.9%	○諏訪市博物館企画展の開催 (生涯学習課) 「特別展 諏訪湖・自然・人・未来-」(R5.5.27～R5.7.17)を開催。1,748名の来館があり、諏訪湖の歴史に加え、自然環境や行政の取組を紹介した。過去の諏訪湖と人々の関わりを知ることで、多様な視点をもって将来の諏訪湖を考えることが大切であることを伝えたいと意図した。旧石器時代からの人類と河川・湖との関わりを示す石器や土器、江戸時代の浮世絵や屏風・俳諧に見られる諏訪湖の様子、かつて見られた水生植物密集地の「エゴ」や水害と治水の歴史について写真などで展示した。長野県諏訪地域振興局の協力により、ヒシ対策や希少生物保護の啓発も行った。 ○「すわ大昔フォーラム」開催等 (生涯学習課) 令和5年10月29日(日)、諏訪市文化センターを会場に、信州大学理学部教授で諏訪臨湖実験所所長の高原裕一先生を講師に招き講演会を行い、43名の参加があった。演題は、「諏訪湖・自然環境の今 45年の定期観測から見えてきたこと」と題し、データから分かる客観的な事実として、透明度・負酸素・ヒシ繁茂などについて説明いただき、多様性の時代に、誰(人・水・動物・植物)にとってより良い諏訪湖にするかを考えることが大切であるとまとめられた。教育委員会内で連携し、開催周知や準備・当日運営を行った。長野県諏訪地域振興局が行う、「諏訪湖の日」関連イベントに登録して周知を行うとともに、集客の一助として博物館から粗品を贈呈し、地域振興局からバッジの提供も受けて配布した。 ○諏訪湖環境保全事業 (環境課) ・上川アレチウリ駆除作業 平成26年度より毎年ボランティアを募集し、上川右岸橋下で実施している。作業に参加していただくことで、アレチウリ駆除の重要性を啓発し、自然環境保全への意識醸成を図っている。 【令和5年度実績】 実施日：R5.6.17 参加者：17人 駆除量：31kg ・諏訪湖ヒシ除去作業(トヨタソーシャルフェス) 平成21年度より毎年ボランティアを募集し、新川河口付近を中心に実施しており、平成25年度からは信濃毎日新聞社と共催で「アクアソーシャルフェス(H30よりトヨタソーシャルフェス)」として、学習会とヒシ除去作業の複合イベントとして開催している。また、除去したヒシは堆肥化している。 【令和5年度実績】※悪天候のため諏訪湖の水車についての学習会のみ実施 実施日：R5.7.1 参加者：91人 除去量：- ・諏訪湖浮遊ゴミ除去作業 平成26年度より諏訪市セーリング協会の協力のもと、毎年実施している。令和4年度より、一般ボランティアを募集し、ボートやカヤックに乗ってゴミを回収するというアクティビティ要素を付加した作業としている。 【令和5年度実績】 実施日：R5.9.16 参加者：60人 除去量：83kg	【生涯学習課】 【外部検証前 担当課判断】 ③地方創生に効果があった ↓ 【外部検証委員会判断】 ③地方創生に効果があった ↓ 【担当課最終判断】 ③地方創生に効果があった	【生涯学習課】 【外部検証前 担当課判断】 ⑤予定通り事業終了 ↓ 【外部検証委員会判断】 ⑤予定通り事業終了 ↓ 【担当課最終判断】 ⑤予定通り事業終了
	諏訪湖創生推進拠点ホームページへのアクセス件数(累計)	3 万件	0.9171 万件	30.6%		○担当課最終判断理由 特別展について、報道で開催情報を知った諏訪中学校生徒のふるさと学習で見学があったり、下諏訪町の団体から講演依頼があった。講演会はアンケート結果から理解度が深まり、納得感のある内容であったと考える。諏訪湖の環境や歴史を考える一助になったと判断する。	○担当課最終判断理由 博物館はさまざまなテーマや内容で展示等を行うため、一旦終了とする。ただし、諏訪湖は諏訪市および諏訪地域の核となるもので、定期的に展示その他で歴史や資料の情報発信は行わなければならないと考える。
目指す将来像	諏訪湖に関するイベント等(セミナー、アクティビティ体験等)の開催回数(回/年)	30 回	34 回	113.3%	【環境課】 【外部検証前 担当課判断】 ②地方創生に相当程度効果があった ↓ 【外部検証委員会判断】 ②地方創生に相当程度効果があった ↓ 【担当課最終判断】 ②地方創生に相当程度効果があった	【環境課】 【外部検証前 担当課判断】 ②事業内容の見直し(改善) ↓ 【外部検証委員会判断】 ②事業内容の見直し(改善) ↓ 【担当課最終判断】 ②事業内容の見直し(改善)	
「諏訪湖創生ビジョン(2018年に長野県が策定)」が掲げる20年後の目標「人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現と、諏訪湖を中心としたSDGsの具現化を目指し、諏訪湖の魅力を引き上げ、積極的に活かしなが、広く内外に情報発信していくことで諏訪地域のブランド力を向上させ、諏訪湖を活かした観光振興を図る。	諏訪湖に関するイベント等(セミナー、アクティビティ体験等)の参加人数(人/年)	4,000 人	11,843 人	296.1%	○担当課最終判断理由 ヒシ除去は、諏訪圏外から60人参加となり、地域外から人を呼び込むイベントとなった。浮遊ゴミ除去は、親子参加が8組18人となり、カヤックというアクティビティ要素を付加することで子どもの参加が増えた。「カヤックもゴミ拾いもとても楽しめた。また参加したいと思った」と感想を聞くことができた。	○担当課最終判断理由 ヒシ除去と浮遊ゴミ除去は、市内外からの参加者に諏訪湖と触れ合う機会を創出するイベントとして継続し、アレチウリ駆除は、参加者が楽しめる要素を検討していきたい。	
構造的な課題	※県主体の事業であるため、上記KPIは諏訪市単独の数値ではなく、諏訪地域全体を対象とした数値。						
・諏訪湖を目的とした観光の日帰りから滞在型観光への転換。 ・面的な諏訪湖の観光情報の発信や観光誘客を図るビジョンセンター的な拠点が無いこと。 ・集中的・継続的な研究のための一元的なデータ活用等。 ・水質改善により諏訪湖に対する関心や諏訪湖に触れ合う機会が低下しており、シビックプライドを持つ住民の養成が必要。	外部検証委員からの意見等(要約・抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・(この交付金事業はデジタル要素が必須ではないが、)諏訪湖の水質が良くなっていることや、ヒシがどう生えているかというのを撮影して、それをデジタルとしてアップしたり、エックスで活動を発信することや、講演会をYouTubeから発信することなども検討していただくといいと思う。 ・中学生が参加しているヒシの除去作業は、生徒たちに聞くと、大変だった、臭かったと、マイナスの意見が多い。環境課の取組は、とてもいいイメージを持たれているように感じたので、何か連携できたらいいと思う。 ・ボランティアは共感から参加するものだと思う。アクティビティも一つの要素だと思うが、多くの人に来てもらいたいものに関しては、どう共感を生むかが重要だと思うので、アクティビティ含め、どう共感を生んでいくのか、それをやったことによる効果などを伝えていただけたら、参加者も増えるのではないかと感じた。 					

事業名 (R5年度実績額) (交付金の種類) (計画期間)	重要業績評価指標 (KPI)				事業概要・令和5年度の取組内容	効果検証結果	
	指標	R5目標値	R5実績値	達成度		事業効果及びその判断理由	今後の方針及びその判断理由
保育園ICTシステム導入事業 (16,074,541円) (デジタル実装タイプ) (R5～7年度) ※交付金はR5年度のみ	保護者アプリダウンロード累計数	1,200 ダウンロード	1,327 ダウンロード	110.6%	保育園業務システム「コードモン」の導入 	【外部検証前 担当課判断】 ②課題解決に相当程度効果があった ↓ 【外部検証委員会判断】 ②課題解決に相当程度効果があった ↓ 【担当課最終判断】 ②課題解決に相当程度効果があった	【外部検証前 担当課判断】 ①追加等更に発展させる ↓ 【外部検証委員会判断】 ①追加等更に発展させる ↓ 【担当課最終判断】 ①追加等更に発展させる
	システムによるお便り配信数(年間)	156 通	444 通	284.6%		○担当課最終判断理由 外部検証委員会を通じて担当課と同様の判断をいただいた。導入による保護者の満足度も3.99ポイントと非常に高い結果で、特に欠席連絡機能については、朝の忙しい時間帯の電話連絡等が不要になったため、「従前の電話連絡と比較し、欠席連絡はコードモンによる連絡が良い」と回答した保護者が94.6%となったことなどから、「課題解決に相当程度効果があった」と判断した。	○担当課最終判断理由 現場で使用する保育士の運用の底上げを第一に考え、各園から選出している効率化検討部会員を通じ、課題の吸い上げ・対応・改善を実施していく。より機能を拡張することが保護者の利便性向上はもとより、使用する保育士の業務の簡素化・効率化につながるという認識であることから当該判断とした。
解決を図る課題	システムによる保護者アンケート実施数(年間)	13 回	13 回	100.0%	【コードモンの機能】 ・園児情報管理 ・(QRコードリーダーによる)登降園管理 ・欠席・遅刻連絡 ・連絡帳 ・お便り配信 ・アンケート ・帳票管理 など		
将来的に実現したい地域像	保育園利用者の満足度(概ね満足とされる水準を3ポイントとして5段階評価)	3 ポイント	3.99 ポイント	133.0%	【コードモン導入に伴う取組】 ・クラス担任1人につき概ね1台のタブレット端末の整備を行った。また、本補助金による事業ではないが、園内に無線LANを整備し、保育士がタブレット端末を持ち歩き園内各所で業務を行える環境整備を行った。 ・ICT導入へのスムーズな移行に備え、令和4年度中から、各園の主任保育士により業務効率化を検討する組織を立ち上げ、保育現場における業務の見直しを行った。 ・導入業者による保育士へのシステム操作研修を行った。		
	システム化に係る保育士の満足度(概ね満足とされる水準を3ポイントとして5段階評価)	3 ポイント	3.15 ポイント	105.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の皆さんも、やはり苦手な方もいるというのもよく分かる。効率化検討部会員の皆さんにバックアップに力を注いでいただきたいと思う。 ・「システムによるお便り配信数」というよりも、システムでの配信のパーセンテージをPRした方がより合理的だと感じた。また、「アンケートの実施数」というのもKPIにそぐわない。満足度のKPIがあるが、これがとても重要なので、この部分をもう少し深掘りするようなKPIに変えた方が、より効果的な検証ができと思う。 ・コロナ禍のように、家族全員が休まなければいけないという時に、保育園、小学校、中学校、高校とすべてシステムが違い、それぞれ入力しなければいけない、このシステムの入力の仕方はどうだったかと、かなり迷われたという話を聞いたので、全体的なシステムを作り上げるといったことも大事かと感じた。 ・保育園、小学校、中学校、高校とすべてシステムが違うという話があったが、それだけ様々な業者があれば、様々な選択ができると思うので、将来的にはさらに素晴らしい最適解を選んでほしいと感じた。 		